

## 参考資料4：伊藤先生学習指導案

### 高等学校第2学年 家庭基礎 学習指導案

比叡山高等学校 教諭 伊藤由季

#### 1. 単元名 風呂敷から考える持続可能な未来

#### 2. 単元の目標

- ・風呂敷から「最小限のモノを最大限に生かす」という日本の生活文化の本質を知り、その生活文化を見失う過程で生まれた諸問題について、特に脱炭素との関連の中で理解する。 [知識・技能]
- ・真結びと、真結びを用いて平面の風呂敷を立体的に形成する技法を身につける。 [知識・技能]
- ・脱炭素の視点で自らの生活行為を見つめ直し、課題を見出す。 [思考・判断・表現]
- ・高校生ならではの着眼点で新しい風呂敷の魅力と脱炭素に向けた活用法を検討する。 [思考・判断・表現]
- ・風呂敷と脱炭素との関わりに興味関心をもち、持続可能な社会の担い手であるという自覚を持って風呂敷の活用法を考え、自らのライフスタイルを変革しようとする。 [主体的に学習に取り組む態度]

#### 3. 単元について

##### (1)教材観

風呂敷は50年ほど前までは暮らしの重宝な道具として使われながら、時代とともにその影を潜めた。その背景には、生活スタイルと価値観の急速な変化があったと思われる。高度経済成長期を経て、暮らしは急速に欧米化し、大量生産・大量消費が生む「使い捨て文化」を受け入れ、合理化、簡略化、スピード化を追求する時代を歩んできた。その結果、豊かさを実感する一方で、それまでの「ものを大切に扱い、何度も使い、最後まで有効に使い切る」が美德とされた価値観は薄れていったと思われる。

環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんは、2005年に初来日した際「もったいない」という言葉に出会い感銘を受け、この美しい日本語を環境を守る世界共通語「MOTTAINAI」として広めることを提唱した。「もったいない」は、Reduce（ゴミ削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）という環境活動の3Rを一言で表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対するRespect（尊敬の念）が込められている。そして、彼女が日本から生まれた「もったいない」を世界をつなげる「MOTTAINAI」として発信するアイテムの一つとして風呂敷を使っていたことは広く知られている。

風呂敷は「最小限のものを最大限に生かす」ことを教えてくれるアイテムである。その汎用性、融通性にこそ、今の時代に求められている「知恵を使ったシンプルな暮らし」の可能性を見出すことができ、自ずと人にも地球にも優しい循環型エコライフの創造、脱炭素社会の実現へと繋げていくことができると考える。

風呂敷を通じて見失った日本の生活文化を再発見し、手軽さや便利さといった面に偏りがちな価値観を捉え直す機会となるようにしたい。そして、脱炭素という新たな価値観を育てたい。

##### (2)生徒観

以下の設問を用い、事前アンケートを実施した。(回答数95)

- |   |
|---|
| <p>⑦風呂敷と聞いて、まず頭に浮かんだことって何ですか。</p> <p>⑧あなたの家には風呂敷がありますか。</p> <p>⑨あなたは風呂敷を使っていますか。</p> <p>⑩あなたはどんな目的、どんな場面で風呂敷を使っていますか。</p> <p>⑪風呂敷の良い点、使っていない人は魅力を感じる点を教えてください。</p> <p>⑫風呂敷の良い点、使っていない人は使いたいと思えない理由を教えてください。</p> |
|---|

設問⑦に対する回答としていちばん多かったものは「包むもの、包んで運ぶもの (33)」で、「泥棒 (24)」、「昔のもの (14)」、「ドラえもののタイム風呂敷 (10)」と続いた。生徒が風呂敷と聞いてイメージするものの多くが二次元的世界のものであることから、生徒の実生活の中に風呂敷は存在せず、過去のものになっていることが窺える。それを裏付けるように、設問⑧では「ない (29)」、「わからない (38)」で全体の7割を超えており、設問⑨でも「自分も家族も使っていない (59)」が全体の6割近くを占めている。設問⑩から、風呂敷を使っている生徒の大半は「お弁当を包む (14)」を目的としており、風呂敷を使用していてもその用途は限定的である。が、設問⑪の回答として「コンパクトに畳める (36)」、「どんなものでも包める (28)」、「色々な形にできる (27)」が多かったことから、生徒は風呂敷の携帯性、融通性、汎用性を一定想定することはできていると考えられる。また、設問⑫の回答として「包むのが面倒臭い (38)」、「包み方が分からない (30)」、「包むのに時間がかかる (26)」が多いことから、これらの要因によって風呂敷の良さを頭の中で理解していても実際に使ってみるといふ行動にまでは繋がらないことが推定される。高校生の重視する「手軽さ、便利さ」といった価値観を問い直し、「脱炭素」という新たな価値観の種を蒔くために、拠点プログラムを活用した体験的な学習を行うことで、生徒に五感を通して風呂敷を体感させることが重要だと考える。

### (3)指導観

第1～4次に共通して、3～4人でのグループワークを基本とし、自主的に考え行動する力、他者と協力して課題に取り組む力、自分の意見を伝える力、意思決定する力を身につけさせたい。

第1・2次では、問いや体験を通して風呂敷の汎用性、融通性に気づかせ、最小限のものを最大限に生かすこと、地球資源を浪費しないことを美德とする日本の生活文化の本質＝サステイナブルであることへと導きたい。

第3次では、拠点プログラムを活用した体験的な学習を行うことで、風呂敷が脱炭素に繋がることを理解させたい。また、真結びと包み方の基本となる技能を習得させることで、新しい風呂敷の活用方法（包み方・使い方）を提案し得る土台を形成したい。また、風呂敷や脱炭素をより身近なものと感じて「自分ごと化」できる力を養いたい。

第4次では、プレゼンテーションを用い、ICT教材を積極的に活用して、グループ内で出した結論を論理的に伝えようとする過程でより深い学びへと繋げていきたい。また、発信の対象を世界の人々に広げることと空間軸を意識した思考を引き出し、生徒の中に「MOTTAINAI」の精神を念押ししたい。将来、生徒たちが大学や企業において、社会に目を向けて課題を見出し、自ら考えた上で他者と関わり、解決にむけて行動していく人材となるよう、プレゼンテーションを通じて、そのための視点や手法を学ばせ、キャリアに繋げさせたい。

### (4)ESDとの関連性

- ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）
  - 〔多様性〕風呂敷には包む、運ぶ以外にも多様な使い方ができる。  
風呂敷のように一枚の布でもものを包む文化はアジア圏を中心にいくつか存在する。
  - 〔相互性〕自然素材のReuse（再利用）が循環型エコライフを創造し、脱炭素社会の実現に繋がる。
  - 〔有限性〕日本には「もったいない」の文化があり、「ものを大切に扱い、何度も使い、最後まで有効に使い切ること」を美德としていた。
- ・本学習で育てたいESDの資質・能力
  - 〔クリティカルシンキング〕  
風呂敷を通して現代日本を批判的に考える。  
風呂敷＝良いものと鵜呑みにしないで批判的に考え、「本当に今の時代にあった使い方ができるのか」と疑問をもつことによっては、その疑問から問題点を把握・整理でき、よりよい使い方を提案できる。  
〔長期的思考力〕  
今のままの生活を続けた先の10年後、20年後の未来を批判的に予測して危機感をもち、ライフステージに応じた自分の暮らし方を想像し、今できる行動変容に繋げていく。
- ・本学習で変容を促すESDの価値観
  - 〔世代間の公正を重視する価値観〕  
風呂敷を通じて日本の生活文化の素晴らしさを再発見するとともに、先人の知恵と努力に敬意を払う。  
今の時代にあった活用法を創造しつつ、良いものを後世に残そうとする態度を養う。
  - 〔人権・文化を尊重する価値観〕  
一度途絶えかけた風呂敷の中の「サステイナビリティ」という新たな価値観に気づくことで、今の時代にこそ求められる生活文化として認識を新たにしている。
- ・関連するSDGs
  - 〔目標7〕エネルギーをみんなにそしてクリーンに
  - 〔目標12〕つくる責任つかう責任
  - 〔目標13〕気候変動に具体的な対策を
  - 〔目標16〕平和と公正をすべての人に

### 5.単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①風呂敷の汎用性や融通性に気づき、日本の生活文化の本質を理解している。 ②真結びと風呂敷の包み方（使い方）を習得している ③風呂敷と脱炭素の関連について理解している。	①時代とともにその影を潜めていった風呂敷の魅力や可能性を脱炭素の視点から再発見し、表現できる。 ②脱炭素の視点から自らの生活行為を再検討できる。 ③ライフステージ、ライフスタイルに応じた新しい風呂敷の活用法を考え、提案できる。	①風呂敷と脱炭素の関連に興味関心をもち、科学的に探求しようとしている。 ②持続可能な社会の担い手であるという自覚をもって、自らのライフスタイルを変容しようとしている。

6. 単元の指導計画(全8時間)

・事前に4人(一部3人)×10グループをつくっておく

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
第1次	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <b>問い①</b> あなたが一つだけつねに携帯できるとしたら①～④のどれを選びますか？                      ①レジ袋 ②紙袋 ③エコバッグ ④風呂敷                 </div>		
見 つ め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に①～④の長所と短所を出し合い、一つ選ぶ。</li> <li>選んだものとその理由を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表させ、考えを共有する。</li> </ul>	
45 × 1 コ マ	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <b>体 験</b> 実際に①～④にいろいろなモノを入れてみよう！                 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に①～④にいろいろなモノを入れてみる。</li> <li>入れた上で、再度①～④の長所や短所を出し合い、一つ選ぶ。</li> <li>選び直したものとその理由を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表させ、考えを共有する。</li> <li>風呂敷の優れた点ばかりを強調せず、若者の考える問題点もおさえるようにする。</li> </ul>	△ア①
第2次	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <b>問い②</b> 風呂敷にできそうなことって何でしょうか？ 短く動詞で表現してみよう！                 </div>		
調 べ る	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に意見を出し合う。</li> <li>出た意見のそれぞれについて、<b>問い①</b> ①～④のどれにできるかを検討する。</li> <li>出た意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表させ、共有する。</li> <li>出た意見の大半は風呂敷にしかできないことに気づかせる。</li> <li>風呂敷の汎用性や融通性を再度念押しした上で、風呂敷の本質が「最小限のものを最大限に生かす」にあることを理解させる。</li> <li>次回、ゲストティーチャーをお招きすることを予告する。</li> </ul>	△ア① △イ①
45 分 × 1 コ マ			
第3次	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">                     拠点プログラム「魔法の布～風呂敷から暮らし方を見直そう～」                      滋賀県地球温暖化防止活動推進センター 推進員 山本 悦子先生他5名                 </div>		
深 め る	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <b>問い③</b> 風呂敷は魔法の布である、という仮説を証明できますか？                 </div>		
45 分 × 2 コ マ		<ul style="list-style-type: none"> <li>魔法の布の定義は「日本を超えて世界中でサステイナブルな暮らしのアイテムになること」にあり、そのキーワードが「脱炭素」であること知らせる。</li> <li>この仮説を以降の取り組みを通して証明していくことがグループの課題であることを理解させる。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <b>体 験</b> 真結びを習得し、実際に風呂敷でモノを包んでみる！使ってみる！                 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「真結び」に挑戦する。</li> <li>「ふるしきトート」に挑戦する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できた！」という達成感を味わわせる。</li> <li>一度結べば解けないのに、解きたい時には一瞬で解けることを経験させる。</li> <li>真結びによって平面の風呂敷が立体になることに気づかせる。</li> <li>真結び以外にも、ひとつ結びやねじるといった手法があることを知らせ、次の「風呂敷の新しい使い方の提案」に繋げる。</li> </ul>	△ア②

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に災害時の風呂敷の活用方法を考え、出たアイデアの中の一つに実際に挑戦してみる。</li> <li>・グループ毎に災害時の活用方法を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方的に教わるのではなく、自らアイデアを考えることで応用力を発揮させる。</li> <li>・発表させ、情報を共有する。</li> <li>・特に災害時は「知っている」に基づいた行動がベースになるため、ここでの共有を大切にす。</li> </ul>	
<b>講義 「文化伝承とサステナビリティ」</b>		
<b>問 い</b> なぜ風呂敷というのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風呂敷が描かれた錦絵等を見せ、その語源を考えさせながら、古に思いを馳せ、時間軸を意識させる。</li> <li>・風呂敷のように一枚の布でものを包む文化はアジア圏を中心にくつか存在することにも触れて、空間軸を意識させる。</li> </ul>	△ア③ △イ①② △ウ①
<b>問 い</b> なぜ風呂敷は消えたのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長期の急速な暮らしの欧米化の流れの中で、風呂敷が手軽で便利な紙袋・レジ袋に取って代われ、ここで「知恵を使う」から「モノに頼る」という大きな価値観の転換が起こったことを理解させる。</li> <li>・レジ袋と脱炭素との繋がりに気づかせる。</li> </ul>	
<b>問 い</b> なぜ今風呂敷なのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素という視点で風呂敷の有用性に気づかせ、今もう一度価値観の転換が求められていることをおさえる。</li> </ul>	
<b>体験 新しい風呂敷の包み方あるいは使い方を提案しよう！</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に「新しい風呂敷の包み方や使い方」を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンの中で披露してもらうことを予告する。</li> <li>・できるだけ今後自分たちが使ってみたいと思える使い方が形になるよう、推進員のみなさんに積極的にサポートしていただく。これを行動変容へ導くきっかけとしたい。</li> <li>・アイデアを出し合うことで汎用性のある学びとなることを目指す。</li> </ul>	△イ③ △ウ②
第4次  広げる  45分×4コマ	<b>発展 「風呂敷は魔法の布である」をキーワードにして、世界に発信するための5分間プレゼンをしよう！</b>	
<b>プレゼン準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に行う。</li> <li>・準備時間は45分×2コマとする。</li> <li>・発表時間は5分とする。</li> <li>・結論理由具体例結論 } PREP法を活用する。</li> <li>・iPadを活用して視覚資料を作成する。</li> <li>・プレゼンのどこかで「新しい風呂敷の包み方や使い方」を提案する。</li> </ul> <b>プレゼン本番</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiのアンケート機能を使って相互評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンを通じて、社会に目を向けて課題を見出し、自ら考えた上で他者と関わり、解決にむけて行動していく人材となれるよう、そのための視点や手法を学ばせ、キャリアに繋げる。</li> <li>・学んだことを話し合い、まとめ、それを伝える過程でより深い学びとなることを目指す。</li> <li>・風呂敷の魅力の世界に発信することで空間軸を意識させ、グローバルな視点をもたせたい。</li> <li>・高校生が風呂敷をサステナブルで、なおかつオシャレな文化として発信してくれるように仕向けていく。</li> <li>・プレゼンを動画に撮り、YouTubeにあげ、客観的な振り返りができるようにする。</li> <li>・ネイティブの英語科教員に評価をお願いする。</li> </ul>	△イ①③ △ウ①②